

令和 6 年度事業報告

社会福祉法人 静岡いのちの電話

令和 6 年度の静岡いのちの電話の事業活動について以下の通り報告します。

1 概要

(1) 社会的環境

令和 6 年年度の社会的環境は国内外で相変わらず社会的不安が大きく広がっております。この社会的脅威のなかでも、電話相談員は、自らの健康に留意しながらも、多くの相談者の不安定なところに寄り添って、各種のいのちの大切さを訴える公益的活動を粛々と進めてきました。

(2) 自殺者数とその対策

令和 6 年の全国自殺者数は 20,320 人と令和 5 年に比べ 1,517 人減りました。ところが令和 4 年以降高いで推移している小中高生は 527 人と前年比 20 人増加し、統計のある昭和 55 年以降最多となりました。

国は令和 4 年 10 月に子ども・若者・女性等の総合自殺対策を盛り込んだ「自殺総合対策要綱」を改定し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」自殺予防週間、自殺対策強化月間を設け事業展開をしましたが若年層の自殺は増加してしまいました。

このような状況において静岡県もこれを受けて令和 5 年 3 月に「第 3 次いのちを支える“ふじのくに”自殺総合対策行動計画」を策定し、女性・若年層・高齢者の対策を重点事項とし、事業を進めてきました。

静岡いのちの電話も自殺者数が段階的に減少していくなかで、国、県、市等の公共機関と連携し、電話相談を始め、以下の各種事業を展開し、自殺防止と自殺予防に努めてきました。

2 事業実施

(1) 主な特記事項

① 電話相談員の動向

コロナ禍から落ち着きを取り戻し、電話相談室の体制も平常体制となってきました。電話相談員は自らの健康管理に努めるとともに、積極的に電話相談に努め、365 日ほぼ毎日切れることなく電話相談に努めました。

また、新規相談員の認定もあり、相談活動に加わりましたが、一方では退会者もあり、相談員数は停滞しています。

② 応募活動の多彩化による応募者の増加

年度内に24期生（4名）が認定され、7年度から相談活動に加わり
ます。また、25期生の募集活動が終了し、7名が養成研修を受講する
ことになりました。募集活動は、事前説明会の開催やSNSを利用した広
報を活用するなど多彩に実施しました。

③ フリーダイヤル電話相談の拡充

毎月10日に実施しているフリーダイヤル電話相談事業を、連盟の要
請により令和4年度途中から毎日実施することとなり、静岡いのちの電
話もこれに参画してきました。

(2) 電話相談員

① 相談員数の動向

静岡いのちの電話相談員は令和6年4月現在、登録相談員数は103名
でした。電話相談員は自らの健康管理に努めるとともに、積極的に電話相
談に努め、365日ほぼ毎日切れることなく電話相談に努めました。年度内
には24期生（4名）が認定され、7年度から相談活動に加わります。し
かしながら退会者もあり年度末の登録相談員数は100名となり、総数は
停滞しています。

また、25期生の募集活動が終了し、7名が養成研修を受講すること
になりました。募集活動は、事前説明会の開催やSNSを利用した広報を活
用するなど多彩に実施しました。

登録電話相談員の資質向上のための研修が軌道に乗ってきました。継続
研修は相談員を8グループに分け実施するグループ研修を、8月を除き毎
月実施しました。また、各個の相談員のための個人スーパービジョン研修は
一部を外部講師により実施することができました。また、8月と2月には
相談員全体研修を実施し、多くの相談員が参加しました。

② 相談員の支援

新たに認定し、実務に参加した相談員や、困難な相談を受けた相談員を
支援するために、上記研修のみでなく、「お助け隊」や「ささえあい活動」
などを積極的に活用し支援活動を行いました。

③ 相談員の表彰

相談時間が、2000時間（2名）、1500時間（2名）1000時間（1名）、
500時間（5名）に達した相談員に対し、理事長から感謝状及び記念品を

贈呈しました。

(3) 受信状況

① 静岡いのちの電話受信件数と自殺志向相談電話

静岡センターと三島分室を合わせた令和6年の総受信件数は8,989件（無言電話を除く）と前年に比べ56件減少しました。長期的にみると全体的には減少傾向にあります。この原因は登録相談員の漸減によるものであり、新たな相談員を確保することと共に、電話担当管理システムの導入など相談員活動の環境整備をさらに進め、休務者を減らし、相談枠を確保することにより、受信件数をさらに増加を図らなければなりません。

② フリーダイヤル・インターネット（全国共通、静岡分）

令和5年度と同様に、日本いのちの電話連盟と連携しながら、フリーダイヤル電話相談を実施しました。さらに一昨年度6月からは、連盟の要請により、毎日フリーダイヤル事業に参加しましたが、今年度は年度を通じて活動し、受信件数は増加しました。

また、初めての試みとして9月と3月に全国一斉に7日間（168時間）連続フリーダイヤル相談に静岡いのちの電話も参加しました。

一方、日本いのちの電話連盟インターネット相談は、相談員研修を受講した前年度同様7名が参加し、通年で実施しました。

(4) 地域における公益的取り組み

① 電話相談ポスターの配布及び電話相談カード作成の計画

赤い羽根共同募金の助成を受けいのちの電話呼びかけポスターを850枚作成し、県内の医療機関、ハローワーク、公民館などに掲示を依頼しました。

さらに令和7年度実施を目指し、中学生を主な対象とし、悩みの相談を促す電話相談カードを作成し、長期休暇後に増加する若年層の自殺を防止するため、夏休み前の7月中旬に県内中・東部の全中学生（公立・私立）及び教職員に配布するための計画づくりをし、静岡県共同募金により、令和7年1月から3月に募金活動を行いました。

② 相談員募集キャンペーンの取り組み

連盟による電話相談員募集キャンペーンの一環として静岡において、「いのちの電話」の周知と相談員の募集のため、「大道芸ワールドカップ・イン・シズオカ」会場でウェットティッシュを2万3千個配布しました。

③ 講演会・映画会

ア 静岡いのちの電話自殺予防公開講演会

令和6年7月13日、アイセル21ホール

演題：『男らしさ、女らしさより 自分らしさが社会を変える
～LGBT・男性・助成とは』

講師：ブルボンヌ

参加者：180名

イ 自殺予防公開映画会

令和7年1月18日 サールナートホール

題名：『ハロルド・フライのまさかの旅立ち』

主演：ジム・ブロードベント

参加者80名

② 会員・寄付金

会費は前年を下回りました。寄付金も後援会活動が停滞したため、伸び悩んでしまいました。しかしながら年度末に、「相談員になりたかったが、家族介護のため実現しなかった」という匿名の方から高額の寄付があった。ご本人の意思により、相談員確保のための積立金としました。

(5) 広報事業(広報誌の発行)

6月及び12月に広報誌を発行し、活動状況などについて、会員及び関係者との情報共有を図るとともに、関係機関(公共・民間)に情報提供をした。一昨年度から一部をカラー刷りとするなど、紙面を刷新しました結果、イメージアップとなり今年度も好評でした。

(6) 他機関との連携

① いのちの電話連盟 全国・関東ブロック・東海ブロック

全国50のいのちの電話センターとともに日本いのちの電話連盟に加入し、インターネット相談、フリーダイヤル相談を共同で実施するとともに、各種会議、研修に参加し、情報の共有化を図りました。

また関連する関東甲信静・東海ブロックや浜松いのちの電話とも同様に各種会議・研修に参加し、情報の共有化を図りました。

② 静岡県

静岡県「第3次いのちを支える“ふじのくに”自殺総合対策行動計画」に参加し、地域自殺対策強化事業助成を受けるとともに、休日・夜間のこころの電話相談を受託しました。また、静岡県電話相談機関連絡協議会に加盟し、各種会議、研修に参加しました。

③ 静岡市

静岡市自殺対策連絡協議会に加盟し、静岡市第4期自殺対策行動計画策定に参画しました。また電話相談の一部助成を受けました。

また、9月の「自殺予防週間」には協議会のメンバーとともに静岡駅前で「自殺予防キャンペーン」を行い、通行人にチラシを配布し、自殺予防を訴えました。

④ 三島市

三島分室が中心となって「三島市いのち支える地域ネットワーク会議」に加盟し、意見を具申しました。

⑤ その他

静岡県共同募金会の支援を受け、養成研修事業、自殺防止ポスター作成の、助成を受けました。

また、10月には静岡市共同募金会の実施する赤い羽根募金活動に参加しました。

静岡いのちの電話 令和7年度事業計画

社会福祉法人 静岡いのちの電話

令和7年度の静岡いのちの電話事業活動について以下の通り計画する。

1 概要

(1) 社会的環境

令和2年2月に発生が確認された「新型コロナウイルス感染症」は、流行が落ち着いてきたが、その反動か季節性インフルエンザが感染を拡大し、感染症の脅威は続いている。また、昨年1月の能登半島地震、8月の「南海トラフ地震臨時情報」、9月の豪雨災害などによる物価の高騰、戦争や政権交代等の国内外情勢の緊張が切れ目なく起き、社会的不安は大きく広がっている。

これら社会的脅威のなかにもかかわらず、電話相談員は、今後も自らの健康に留意しながらも、多くの相談者の不安定なところに寄り添って、各種のいのちの大切さを訴える公益的活動を粛々と進めていく。

(2) 自殺者数とその対策

令和6年の全国自殺者数は20,268人と令和4年に比べ1,569人減った。平成15年34,427人をピークに以降漸減し、令和元年に20,169人となったが、コロナ禍で増加に転じたものの、昨年は令和元年に次ぐ少なさとなった。

前年に比べ男性は1,099人減少し、女性は470人減少した。ところが令和4年以降高い水準で推移している小中高生は527人と20人増加し、統計のある昭和55年以降最多となった。

国は令和4年10月に子ども・若者・女性等の総合自殺対策を盛り込んだ「自殺総合対策要綱」を改定し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」自殺予防週間、自殺対策強化月間を設け事業展開をしたが若年層の自殺は増加してしまった。

自殺者数が段階的に減少していくなかで、若年層の急増に対応し、静岡いのちの電話は国、県、市等の公共機関と連携し、電話相談を始め、以下の各種事業を展開し、自殺防止と自殺予防に努めていく。

2 事業計画

(1) 電話相談員

① 相談員の拡充

静岡いのちの電話相談員は令和7年3月現在、登録相談員数は100名（休務者18名を含む。）である。3月末には24期生の認定が見込まれ、若干の増員となるが、相談枠の拡大や相談時間の延長など、相談者のニーズに応えるにはさらに多くの相談員が必要である。

令和7年度中には24期生4名が実務に参加する予定であるが、さらに相談員の増加を目指し、6年度に募集した25期生（7名）について、8年度10月には認定できるようこの4月から養成研修を始める。

さらに26期生の養成研修の募集にあたっては、研修内容を検討するとともに、同じ静岡地域にある浜松いのちの電話と連携して募集活動が効果的に実施できるよう今年度当初から検討していく。具体的には、ポスター・チラシなどの広報を共有して周知するとともに、SNSを積極的に利用するなどあらゆる機会を設けて進めていく。

② 相談員の研修

相談員を8グループに分け毎月実施する継続グループ研修の他、相談員全体研修会、個人スーパービジョン研修、自己啓発研修等を一体的に実施する。

加えて相談員から研修担当者となれるよう、昨年度から再開した研修担当者養成研修を継続する。

③ 相談員の支援

新規認定相談員や困難な相談を受けた相談員を支援するため、個人スーパービジョン研修が用意されているが、突然予定していた電話担当ができなくなった相談員の相談枠確保のため「お助け隊」を活用し、相談員相互の支援活動を行う。

(2) 受信状況

① 静岡いのちの電話受信件数と自殺志向相談電話

令和6年の総受信件数は前年に比べほぼ同水準で推移した。しかし全体的には長期的に減少傾向にあるといえる。この原因は相談員の高齢化による相談枠の減少、登録相談員の漸減によるものであると思われる。相談員活動の環境整備をさらに進め、新規の相談員の養成や、休務者を減らし、相談枠を確保することにより、受信件数を増加に転じていく。

② フリーダイヤル電話相談

日本いのちの電話連盟の要望により、5年度から、毎日フリーダイヤルが実施された。毎月10日の自殺予防フリーダイヤルと合わせ、連盟

の期待に応えるよう、実施件数を増やしていく。

またこれとは別に連盟主催により、24時間フリーダイヤルトライアルが6年度9月及び3月に実施され、静岡でもコロナ禍以降久しぶりに24時間対応したが、7年度も連盟での計画があれば積極的に対応していく。

③ インターネット相談

一部で実施されていた独自のインターネット相談が統合され、日本いのちの電話連盟主催で新たに全国規模となったが、これに対応し進めていく。また、インターネット相談員をさらに増員していく。

(3) 地域における公益的取り組み

① 中学生向け自殺予防カードの配布・電話相談ポスターの掲示

若年層の自殺急増を踏まえ、赤い羽根共同募金の助成を受け、中学生を主な対象とした悩みの相談を促す電話相談カードを、長期休暇前の7月に、静岡県内（中部・東部）の全中学生及び教職員に配布する。

また、ハローワーク、公民館、図書館、病院等へいのちの電話への電話呼びかけポスターを、8年度実施を目指して計画を策定し、募金活動（赤い羽根課題解決プロジェクト募金）を実施する。

② 講演会・映画会

厚生労働省の助成により「静岡いのちの電話自殺予防静岡講演会」を6月21日（土）に、新進作家であるヒオカ氏を講師に迎え静岡市内にある静岡県男女共同参画センター「アザレア」で実施するほか、「市民公開講座、映画上映会」を計画的に実施する。

③ 会員・寄付金の拡充

広報誌、新聞等のマスメディア、関係者のクチコミ等により、社会福祉法人静岡いのちの電話の存在をPRすることにより、会員数、寄付金額の増加を目指す。

(4) 広報事業

6月及び12月に広報誌を発行し、会員及び関係者の交流と情報共有を図るとともに、関係機関（公共・民間）に対し、積極的に情報提供をする。

更新したホームページはスマートフォンにも対応できるので、これを積極的に利用し、広範な広報活動をし、いのちの電話の周知・理解を図る。

また、養成研修生募集に関しては、「浜松いのちの電話」と協働し広範囲で効果的な広報を進める。

(5) 他機関との連携

① いのちの電話連盟（全国・関東ブロック・東海ブロック）

全国50のいのちの電話センター及び日本いのちの電話連盟と連携し、ナビダイヤル・フリーダイヤル相談、インターネット相談を実施するとともに、各種会議、研修に参加し、情報の共有化を図る。

あわせて連盟が主催する相談員募集活動に参加する。

また関連するブロックとも同様の活動を実施する。東海ブロックは主催事務局として研修を企画・実施する。

② 静岡県

静岡県「第3次いのち支える“ふじのくに”自殺総合対策行動計画」に参加し、電話相談の一部助成事業助成を受ける。

静岡県電話相談機関連絡協議会に加盟し、各種会議、研修に参加する。今年度は浜松市いのちの電話とともに事務局を担当し会議・研修を企画・実施する。

③ 静岡市

静岡市第4期自殺対策行動計画に参加し、電話相談の一部助成を受ける。

静岡市自殺対策連絡協議会に加盟し、各種会議、研修に参加する。

④ 三島市

三島市いのち支える地域ネットワーク会議に加盟し、参加する。

⑤ 共同募金会

静岡県共同募金会の支援を受け、養成研修事業、カード・ポスター作成、の助成を受ける。